

令和3年度 ガイドライン評価改善シート

施設名 (スタジオアルテ生活介護) 作成日時 (令和3年 9月23日)

代表	施設長	本部
印		

令和3年度 改善への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所との連携を広げ、親亡き後（年老いた後）も安定して、自立・安心した生活を送れるよう、本人、保護者の意向を聞き、資源について話し合う機会を設けていく。 ・今後の生活スキル向上に受けて生活面の聞き取りアセスメントの活用、また日々の支援の様子、アセスメントから、各々のニーズに合わせた（個別化した）支援計画を作成する。 ・非常災害時の対応について、月1回の避難訓練で利用者、職員共、避難方法や自分の役割について、経験を積み重ね、身につけていく。 ・支援や活動を動画にして保護者と情報共有し、現在の様子を伝えると共に今後に向けて目標を共有していく。
今年度の施設目標	<p>職員間の報・連・相を徹底し、「しっかり」「やわらかく」風通しの良い環境作りを行なう。</p> <p>本人、ご家族の気持ちやニーズを各々に合わせて傾聴し、個別支援計画に反映させ、明るい未来に向けて支援していく。</p>

項目	事業所内評価を踏まえた上での問題点	事業所内評価を踏まえた上での改善点
環境・体制整備	・職員の人員は確保され、安定した支援の継続、業務日誌や情報共有伝達ツールで情報共有をしているものの、送迎等やコロナ禍を理由にミーティング等支援について話し合う十分な時間の確保が出来ていない。	・コロナ禍を理由にすることなく、職員間でもICT化を進め、職員も新しい生活様式を意識し、支援統一に向けて色々な取り組みを行なっていかなければならない。
業務改善	・職員のLINEWORKSを導入し、職員間の「報・連・相」ツールが増え、各々が支援向上に積極的に利用している。 ・外部の意見をお聞きし、支援に生かしていく取り組みが不足している。	・面談など御家族とお話をする機会に通所を利用しての意見要望などをお聞きし、事業所職員全体で共有、話し合いの場を設けて、改善に向けて取り組んでいかなければならない。
適切な支援の提供	・「アセスメントから」という言葉がパート職員からも積極的に出るようになり、アセスメント後の支援等について共有、統一を図っているが、場面の変化、予想外の場面等に柔軟、適切に対応する支援力にバラつきが見受けられる。	・書面での報連相や支援の共有、統一だけではなく、ミーティング等で色々な場面等を想定して考え、それぞれが考えて言語化するなど、立体化した話し合いを持つことが必要と考える。
関係機関との連携	・相談支援事業所相談支援専門員との情報の共有、ケース会議等コロナ禍の中で出来ることは行ってきたが、通所施設を併用している利用者の個別支援計画の共有、連携等が足りず、通所施設同士の支援の食い違いが見受けられる。	・相談支援専門員が作成した支援計画を踏まえて各事業所で作成した支援計画が相違していないか、利用者主体の計画になっているか、併用事業所との話し合いや連絡等、相談支援事業所を主にした連携を行なっていく。
本人（家族）への説明責任等	・面談等で支援計画その他について、ご家族の方とお話、説明をしているが、利用者さんに支援計画をかみ砕いてわかりやすく説明する時間が不足している。	・ご家族とのお話だけではなく、利用者さんにもわかりやすく伝え、本人が頑張ることを意識づけていくことが必要。
非常時等の対応	・通常行っている訓練に加え、地域避難場所を使用した訓練や水難時対応訓練も行った。初めて車椅子利用者を2階に避難する訓練を行ったが、他施設職員の協力を得ないと行なうことが難しかった。また、他施設職員との初顔合わせの利用者さんもいて、安心信頼感がなく、不安を与える訓練もあった。	・避難訓練を施設内で行なうだけではなく、他施設（NIHOアルテ、まつもと園）併せての訓練、加えて他施設との利用者、支援者を知ること、コミュニケーションを図る場を持つことで利用者が信頼、安心感を持って訓練に取り組めるようにしていく。



分析検討してみたの事業所の強み
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も、常勤・非常勤パートさん共長く勤務する傾向にあり、人員が確保され、安定した支援を行なうことが出来ているように考える。 ・職員間の報告、連絡、相談等が行ないやすく、「ではどうしたらよいか？」など、職員全体で前向きに考える雰囲気がある。また、職員間で声掛けし、場面に応じた支援の引継ぎ、アイコンタクトでの支援連携等にも取り組むことが出来ているように考える。

分析検討してみたの事業所の改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・安定した支援が出来ているが、そこに満足するのではなく、支援の見直し、他からの意見をお聞きし、日々改善を積み重ねていくことが必要なのではと思う。 ・地域交流、社会参加の機会がない。コロナ禍ではあるが、参加の場を模索し、状況を見て、徐々に参加の機会を増やしたい。 ・法人では自閉症支援の学びをしているが、スタジオ生活介護は自閉症以外の様々な障がい（知的、身体、精神）の方も利用されている。適切な支援ができていないか。自閉症以外の深い学びも必要なのではないか。

事業所の改善への取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ・報連相はLINEWORKSや業務日誌等のツールを使用し、職員会議では報連相にこだわりすぎず、場面を想定した各々の支援等をディスカッションし、すぐに実践できるものにしていく。また、知的障がい、身体障がい、精神障がいと様々な方が利用していることから、同じ場面でも支援方法が変わることを専門書籍の熟読や会議等で支援統一を図り、様々な障がいや場面に対応できるような学びの機会を作る。 ・現在の利用者さんの環境や支援体制を維持しつつ、人員体制に合わせて若干名の新規利用者さんの受け入れを行なう。 ・活動内容や環境、スケジュールが心地よいものになっているか、日頃より見直していくことの継続 ・職員をも「好き」「得意」を生かし、適材適所、心身の負担が少なく仕事を進められるような仕事分担を行なう。

自己評価を行っての事業所としての感想など
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者さんの自主性の見守り、教えること、コミュニケーションを取るなど「出来ることを増やす」には、十分な人員体制と感じている。職員の雰囲気やチームワークが利用者さんの安心、過ごしやすさに繋がっているように思う。様々な障がいの方が利用されていることから、今後も利用者さんの「人となり」を心得て、それぞれの利用者さんのありのままを受け入れ、心温かい寄り添った支援をしていきたい。

来年度の施設目標	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者・ご家族・職員間共、安心、信頼できる「場」であること、環境づくりの継続。 ・様々な障がいに対応し、御本人、御家族のニーズを個別支援計画に反映させ、明るい未来に向けて支援していく。
----------	--